THE INFLUENCE OF CHRONIC SINUSITIS ON THE CAPACITY OF MENTAL WORK

Report 4 Influence of Chronic Sinusitis on the Temperment of the Patient.

K. SHIRAKURA

*From the Otolaryngology Department Showa Medical School
(Director: Prof T. Yamamoto)*

The author, investigated the influence of chronic sinusitis on the temperment of patients. The mental capacity was found not to be impaired merely by the presence of the disease. The apparent disturbances of mentalwork of the patient with chronic sinuaitis were considered to be attributable to the lack of power of concentration or the feeling of lassitude caused by the disease.

慢性副鼻腔炎と精神機能との関係

第4編 慢性副鼻腔炎と心情との関係

昭和医科大学耳鼻咽喉科教室（主任：山本常市教授）

白 倉 賢 三
シ ク ケン ソウ

第1章 緒 言

私は第1編、第2編、第3編において「慢性副鼻腔炎患者の智能指数、精神作業能力の休憩効果率、向性指数を通じて智的作業能率を検した結果、これらの平均値は健康者の平均値に比して低く、又鼻症状のみを有する慢性副鼻腔炎患者の前記諸検査の平均値と、健康者のこれらとの間には統計的に有意の差を見ないが、Aproseviaを有する慢性副鼻腔炎患者の前記諸検査の平均値は、何れも健康者のそれに比して低く、統計的にも有意の差を認め、又慢性副鼻腔炎患者の術前における智能指数、休憩効果率の平均値と術後における平均値との間には有意の差を見たが、向性指数は術前、術後において差を見ない」と報告したが、本編においては慢性副鼻腔炎患者の手術後において、智能指数並に休憩効果率の変化に乏しい者（以下 A 群とする）及び成績の明らかに上昇せる者（以下 B 群とする）とに心情検査を施行し、興味ある成績を得たので報告する。

第2章 実験材料並に実験方法

材料は国立千葉病院耳鼻咽喉科入院患者で、智能検査には田中・B 式を使用し、精神作業能力検査は Krae-

pelin・内田氏法を行い、本検査の成績は休憩前 10 分間の平均作業量を分母とし、休憩後 5 分間の平均作業量を分子として、これを 100 倍する休憩効果率で表わし、心情検査は教育衛生研究所心情質徴標検査法を用いた（表参照）。

第 1 表

	術後知能指数増加	精神作業能力 休憩効果率増加	
A	5 以下	5 以下	20 例
B	10 以上	10 以上	20 例

術後における諸検査は術後 6 カ月以上経過し、鼻症状治癒の状態にあるものを第 1 表の如く各 20 例を選んで、術前に比して、術後における指数、休憩効果率の増加が 5 以下（A 群）、10 以上（B 群）に分けてみると、その成績は第 3 章の如くである。

第3章 実験成績

この検査法で、イロハを正常、=ホを異常に分け、A 群、B 群を比較すると、その成績は次の通りである（第 1 図、第 2 表参照）。

抑鬱性のイは A 群. 2 名, B 群. 3 名, ロは A 群. 9 名, B 群. 8 名, ハは A 群. 4 名, B 群. 5 名, ニは A 群. 4 名, B 群. 3 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 1 名で, 過敏性のイは A 群. 3 名, B 群. 3 名, ロは A 群. 7 名, B 群. 8 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 4 名, ニは A 群. 4 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 0 名, にして, 強迫性のイは A 群. 3 名, B 群. 2 名, ロは A 群. 7 名, B 群. 6 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 6 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 0 名, B 群. 1 名で, 自己不確実性のイは A 群. 3

第 1 図

第 2 表

1 抑鬱					5 強迫					9 意志欠如					13 自己顕示				
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
A	2	9	4	1	A	3	7	5	0	A	3	5	5	6	A	2	6	5	6
B	3	8	5	3	B	2	6	6	5	B	2	6	7	4	B	3	7	5	5

2 無力(精神面)					6 自己不確実					10 即行					14 爆発				
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
A	1	2	1	12	A	3	5	5	5	A	3	7	4	5	A	3	7	5	4
B	1	1	2	3	B	2	5	6	6	B	4	6	5	5	B	5	6	6	3

3 無力(身体面)					7 内閉					11 不安定					15 爽快				
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
A	1	1	1	13	A	4	6	5	5	A	3	7	4	5	A	3	6	6	4
B	4	10	5	1	B	3	7	4	5	B	2	9	4	4	B	5	5	5	5

4 過敏					8 粘着					12 気分易変									
イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ					
A	3	7	5	4	A	2	8	5	5	A	3	8	4	5					
B	3	8	4	5	B	2	7	5	5	B	2	8	5	5					

名, B 群. 2 名, ロは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 6 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 6 名, ホは A 群. 2 名, B 群. 1 名で, 内閉性のイは A 群. 4 名, B 群. 3 名, ロは A 群. 6 名, B 群. 7 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 4 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 0 名, B 群. 1 名にして, 粘着性のイは A 群. 2 名, B 群. 2 名, ロは A 群. 8 名, B 群. 7 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 0 名, B 群. 1 名で, 意志欠如のイは A 群. 3 名, B 群. 2 名, ロは A 群. 5 名, B 群. 6 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 7 名, ニは A 群. 6 名, B 群. 4 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 1 名にして, 即行性のイは A 群. 3 名, B 群. 4 名, ロは A 群. 7 名, B 群. 6 名, ハは A 群. 4 名, B 群. 5 名, ニは A 群. 4 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 1 名,

B 群. 0 名で, 不安定性のイは A 群. 3 名, B 群. 2 名, ロは A 群. 7 名, B 群. 9 名, ハは A 群. 4 名, B 群. 4 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 4 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 1 名で, 気分易変性のイは A 群. 3 名, B 群. 2 名, ロは A 群. 8 名, B 群. 8 名, ハは A 群. 4 名, B 群. 5 名, ニは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 0 名, B 群. 0 名にして, 自己顕示性のイは A 群. 2 名, B 群. 3 名, ロは A 群. 6 名, B 群. 7 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 5 名, ニは A 群. 6 名, B 群. 5 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 0 名, 爆発性のイは A 群. 3 名, B 群. 5 名, ロは A 群. 7 名, B 群. 6 名, ハは A 群. 5 名, B 群. 6 名, ニは A 群. 4 名, B 群. 3 名, ホは A 群. 1 名, B 群. 0 名, 爽快性のイは A 群. 3 名, B 群. 5 名, ロは A 群. 6 名, B 群. 5 名, ハは A 群. 6 名, B 群. 5 名,

ニは A 群 4 名, B 群 5 名, ホは A 群 1 名, B 群 0 名にして, 何れも A 群, B 群の正常, 異常の間には差は見られないが, 無力性の精神的のものは, イ: A 群 1 名, B 群 1 名 ロ: A 群 2 名, B 群 11 名, ハ: A 群 1 名, B 群 2 名, ニ: A 群 12 名, B 群 3 名, ホ: A 群 4 名, B 群 3 名で, 身体的のものは, イ: A 群 1 名, B 群 4 名 ロ: A 群 1 名, B 群 10 名, ハ: A 群 1 名, B 群 5 名, ニ: A 群 13 名, B 群 1 名, ホ: A 群 4 名, B 群 0 名にして, 正常, 異常に分けて見ると, 精神的のものは, 正常 A 群 4 名, B 群 14 名, 異常 A 群 16 名, B 群 6 名で, 身体的のものは, 正常 A 群 3 名, B 群 19 名, 異常 A 群 17 名, B 群 1 名で, 統計学的にみても有意の差を認めた。

第4章 考 按

教育衛生研究所式心情質微標検査で, 心情質微標は抑鬱性, 無力性 (精神面), 無力性 (身体面), 過感性, 強迫性, 自己不確実, 内閉性, 粘着性, 意志欠如, 即行性, 不安定性, 気分易変性, 自己顕示, 爆発性, 爽快性の 15 に大別されており, この各心情質微標はイロハニホの 5 段階に分けられている。即ち, イは反対微標, ロは普通微標, ハは固有微標, ニは偏倚微標, ホは異常微標とされ, イロハを示すものは正常範囲内にあるものであるが, ニホを示すものは異常に性格特徴の強いことを示すものであり, 偏倚微標のあるものは軽度変調, 異常微標のあるものは高度変調あるものとされている。

さて, 前記成績に就て, イロハを正常範囲, ニホを異常範囲とすると,

1. 抑鬱性は正常, A 群 15 例, B 群 16 例. 異常, A 群 5 例, B 群 4 例
4. 過感性は正常, A 群 15 例, B 群 15 例: 異常, A 群 5 例, B 群 5 例
5. 強迫性は正常, A 群 15 例, B 群 14 例. 異常, A 群 5 例, B 群 6 例
6. 自己不確実は正常, A 群 13 例, B 群 13 例. 異常, A 群 7 例, B 群 7 例
7. 内閉性は正常, A 群 15 例, B 群 14 例: 異常, A 群 5 例, B 群 6 例
8. 粘着性は正常, A 群 15 例, B 群 14 例. 異常, A 群 5 例, B 群 6 例
9. 意志欠如は正常, A 群 13 例, B 群 15 例. 異常, A 群 7 例, B 群 5 例
10. 即行性は正常, A 群 14 例, B 群 15 例. 異常,

A 群 6 例, B 群 5 例

11. 不安定は正常, A 群 14 例, B 群 15 例. 異常, A 群 6 例, B 群 5 例

12. 気分易変は正常, A 群 15 例, B 群 15 例: 異常, A 群 5 例, B 群 5 例

13. 自己顕示は正常, A 群 13 例, B 群 15 例: 異常, A 群 7 例, B 群 5 例

14. 爆発性は正常, A 群 15 例, B 群 17 例. 異常, A 群 5 例, B 群 3 例

15. 爽快性は正常, A 群 15 例, B 群 15 例. 異常, A 群 5 例, B 群 5 例

てあつて, これらの心情質微標については, A 群, B 群の正常, 異常の間には統計学的に有意の差は見られないが, 精神的無力性及び身体的無力性については, 第3表及び第4表の如くてあり, 統計学的にも有意の差を認めた。即ち, 術後の変化の乏しい A 群においては正常のものが少く, 異常な心情を示すものが多く, 術後の成績の良くなつた B 群においては正常範囲のものが多く, 異常に入るものが少い。この事は精神的無力性及び身体的無力性何れにも共通している。

第3表 無力 (精神)

	イロハ	ニホ
A	4	16
B	14	6

第4表 無力 (身体)

	イロハ	ニホ
A	3	17
B	19	1

無力性の心情とは, 身体的あるいは精神的に不全感 (Insuffizienzgefühl), 心気性 (Hypochondrie), を持つもので, 所謂慢性神経衰弱, 又は神経質の母体をなすものであるが, 前記検査成績に依れば著しく無力性のもの, 即ち強い心不全感乃至心気性を有するものは慢性副鼻腔炎治療後においても, 智的作業の能率が改善されない。若し慢性副鼻腔炎が一次性に智的能力を低下させるとすれば, 情意的特性のいかんにかかわらず, 慢性副鼻腔炎の治療によつて智的作業の能率は改善されるべきであつて, 上記の結果は一見不可解な現象の如くである。

しかし, このことは精神作業能率の低下が慢性副鼻腔炎罹患による心因性のあるいは外因反応の最も mild な形としての過敏性情動衰弱状態 (hyperasthetische emotionelle schwachezustände) の結果としての心身不全感, 心受性に起因すると考えれば容易に説明できるのであつて, 心身不全感, 心気性即ち無力性の精神態度が二次的に智的能力を抑制すると考えれば, 慢性副鼻腔

炎治療後も猶不全感、無力性を残しているもの、即ち恐らくは生来の無力性性格異常者（Kurt Schneider の所謂 *asthenische Psychopathen*）では、術後検査成績が改善されないのが当然である。

以上の事実よりみれば、慢性副鼻腔炎が一次性的の智的能力を低下せしむると考えるのは誤りであることが明かであるが、更に智的作業率の減退の主因である無力性の精神態度は心因性の要素が、外因性のそれより大であると考えられる。何故なら慢性副鼻腔炎に罹患しても鼻症状のみを呈し、精神的苦訴のないものもあり、かゝる例では智的作業の検査成績が正常人と異なることは前述の如くであり、又慢性副鼻腔炎そのものの重篤度と精神的苦訴の強さとは必ずしも平行しないからである。

第5章 結 論

1) 慢性副鼻腔炎手術後において、智能指数、精神作業能力の休憩効果率の増加が5以下の者、10以上の者各例に就て心情質指標検査を施行した

2) 抑鬱、過感、強迫、自己不確実、内閉、粘着、意志欠如、即行、不安定、気分易変、自己顕示、爆発、爽快性については、A 群、B 群の間に差異は見られない。

3) 無力性の身体的のものは正常範囲のもの。A 群3例、B 群19例、異常に著明のもの：A 群17例、B 群1例にして、精神的のものは正常。A 群4例、B 群14例、異常 A 群16例、B 群6例であつた

4) 慢性副鼻腔炎患者の心情調査の結果、慢性副鼻腔炎は患者の智的作業能力を一次性的に減退させるものではなく、それは慢性副鼻腔炎によつて起る無力性の精神態度即ち心身の不全感、心気性に原因していると推考した。

文 献

- 1) Allport, G.: Personality 1937. 2) Murphy, H.A.: Personality 1951. 3) Kretschmer, E.: Körperbau und charakter, 12, Aufl, 1936. 4) Kretschmer, E.: Medizinische psychologie, 4te Aufl, 1930. 5) 増田：実験心理学 6) 戸川：心理学。7) 横田・クレペリン・内田鼎神作業検査法。8) 石川：智能検査法指針。9) 森：耳喉科 22, (1), 1950. 10) 鈴木、平林：耳喉科, 23, (11), 1951. 11) 鈴木、平林：耳喉科, 23, (12), 1951. 12) 鈴木、平林：耳喉科, 24, (1), 1952. 13) 神田：耳喉科, 24, (3), 1952. 14) 蔡：耳喉科, 24, (9), 1952. 15) 早川：日耳会, 49, 1943. 16) 市原：日耳会, 55, (1), 1949. 17) 吉村、松尾：福岡医誌, 28. 18) 市原：耳喉科, 25, (6), 1953. 19) 市原：耳喉科, 25, (9), 1953. 20) 平林：日耳会, 57, (3), 1951. 21) 市原：日本医事新報, 1637. 22) 市原：耳喉科, 26, (1), 1954. 23) 市原：日耳会, 58, (2), 1952. 24) 市原：日耳会, 58, (臨時), 1952. 25) 市原：耳喉科, 29, (1), 1957. 26) 平林：日耳会, 59, (6), 1953.

本論文の要旨は第57回日本耳鼻咽喉科学会総会にておいて発表した。

終稿に当り、終始御懇篤なる御指導と御校閲を賜つた恩師山本教授並に本学精神科学教室塩崎教授に深謝すると共に、御助力を頂いた市原助教授に感謝の意を表する。

(原稿到着＝昭和34.2.11日一急載)